

令和7年度採用 高等学校 地理歴史（地理）

教科（科目）	受験番号
地理歴史（地理）	

1 次の設問（１）～（１２）に答えよ。

- （１） 次の地図中の３地点（秋田、盛岡、宮古）と雨温図の組合せとして最も適切なものを，次の①～⑥の中から一つ選べ。解答番号は１１。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

ア

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

イ

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

ウ

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

（「気象庁資料」より作成）

	秋田	盛岡	宮古
①	ア	イ	ウ
②	ア	ウ	イ
③	イ	ア	ウ
④	イ	ウ	ア
⑤	ウ	ア	イ
⑥	ウ	イ	ア

- (2) 次のグラフは、北海道、東北、関東、北陸、九州の各地方の農業産出額の内訳を示したものである。関東地方に当てはまるものとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は12。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(「令和4年度 生産農業所得統計」より作成)

- (3) 次の文章を読み、下線に誤りを含んでいるものを、①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は13。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(国土地理院 地形図「五所川原」平成23年発行を一部改変)

上の地形図は、青森県の岩木川流域のものである。南北を貫く岩木川は、つがる市と鶴田町の①市町の境の一部となっている。

地点アは、旧河道に位置しており、主に水田として利用されていることが分かる。一般に、旧河道は地盤が弱く、地震の際には②液状化現象が起こりやすいといわれる。

地点イは、自然堤防上に位置しており、③主に果樹園として利用されていることが分かる。また、地点イの東側には列状に集落も見られる。一般に、農村において、自然堤防上は、④集落や畑として利用されることが多い。

地点ウは、自然堤防の背後に位置しており、主に水田として利用されていることが分かる。一般に、氾濫原において、自然堤防の背後は、⑤水はけのよい後背湿地となる。

- (4) 次の地図中に示されたア～ウの国と、それぞれの国における宗教別人口割合を示したグラフA～Cの組合せとして最も適切なものを、次の①～⑥の中から一つ選べ。
解答番号は14。

著作権保護の観点により、
掲載いたしません。

A

B

C

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(「De Grote Bosatlas 2007」ほかより作成)

	ア	イ	ウ
①	A	B	C
②	A	C	B
③	B	A	C
④	B	C	A
⑤	C	A	B
⑥	C	B	A

- (5) 次のグラフ中のA～Cは、日本、ベトナム、マレーシアのいずれかの15歳以上の産業別就業者人口の割合を示しており、記述ア～ウはこれらの国の産業の特色について説明している。グラフと記述から、マレーシアを示した組合せとして最も適切なものを、次の①～⑨の中から一つ選べ。解答番号は15。

著作権保護の観点により、
掲載いたしません。

(「世界の統計 2024」より作成)

- ア この国では、1980年代中ごろから、ドイモイ（刷新）とよばれる市場開放政策を展開し、シンガポールなどの賃金水準の高い国から、繊維製品や食料品などの労働集約的な工業の生産拠点が移転してくるようになった。1990年代にはASEANに加盟し、現在では、周辺の国々からの投資も盛んになっている。
- イ この国は、1960年代に高度経済成長を成し遂げ、電気機械や自動車などの生産と輸出が拡大したが、1980年代に入ると貿易摩擦が生じたことや人件費の高騰などから、生産拠点の海外移転が進んだ。1990年代以降は、情報通信技術の進展によって情報通信業が発展した。
- ウ この国は、ASEANの中でも早くから工業化が進んだ。輸出加工区に外国企業を誘致し、半導体の集積地を作るなどして、電機・電子産業を発展させたことで、かつては天然ゴムや原油が主な輸出品であったが、現在では機械類が主な輸出品となっている。

- | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| ① A・ア | ② A・イ | ③ A・ウ | ④ B・ア | ⑤ B・イ |
| ⑥ B・ウ | ⑦ C・ア | ⑧ C・イ | ⑨ C・ウ | |

- (6) 次のグラフは、アジア、アフリカ、北アメリカ、ヨーロッパ、オセアニアの食料生産量と人口の推移について、2005 年を 100 として示したものである。アフリカのグラフとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 16。

①	②	③
著作権保護の観点により、掲載いたしません。		
④	⑤	
著作権保護の観点により、掲載いたしません。		

(「FAOSTAT」より作成)

- (7) 次の資料は、13世紀半ばの伯耆国東郷荘の土地経営に関する略図である。資料に関する記述ア～エについて、正しいものの組合せとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は17。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(「伯耆国河村郡東郷荘下地中分絵図」より作成)

ア 境界線を境に、東部は領家分、西部は地頭分として領域別に二分していることがわかる。

イ 田地・山林・牧野を、それぞれ領家分・地頭分に二分していることがわかる。

ウ この資料は、地頭の荘園侵略が激しくなる中で、荘園を分割して片方を地頭の支配に任せ、互いに干渉せずに土地と農民とを支配する取り決めを示した図である。

エ この資料は、地頭が荘園全体を管理し、領主に一定の税を納入する取り決めを示した図である。

- ① ア・エ ② ア・ウ ③ イ・ウ ④ ア・イ ⑤ イ・エ

- (8) 次の資料A～Cと、それぞれが描かれた頃の文化の特色に関する記述ア～ウの組合せとして最も適切なものを、次の①～⑥の中から一つ選べ。解答番号は18。

<資料>

A 「四季山水図巻」

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

B 「紅白梅図屏風」

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

C 「鳥獣戯画」

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

ア 経済と文化の先進地であった大坂や京都などの上方を中心に文化が発展した。また、江戸では、都市の風俗を描く浮世絵があらわれ、民衆に広く普及した。

イ 貴族文化が、新たに台頭してきた武士や庶民とその背後にある地方文化を取り入れるようになった。また、地方の合戦に取材した軍記物もつくられはじめた。

ウ 風雅を尊ぶ日本古来の精神に簡素を重んじる禅の精神が合わさって、幽玄の境地を求める傾向が文化の各方面に広くあらわれるようになり、簡素ななかに幽玄を重んじた庭園などもつくられた。

	A	B	C
①	ア	イ	ウ
②	ア	ウ	イ
③	イ	ア	ウ
④	イ	ウ	ア
⑤	ウ	ア	イ
⑥	ウ	イ	ア

- (9) 次の文章は、東南アジアのある国の独立後の展開について述べたものである。この文章にあてはまる国として最も適切なものを、地図の①～⑤の中から一つ選べ。
- 解答番号は19。

1945年、この国は、フランスからの独立を宣言したが、これを認めないフランスとの間で戦争となった。1954年、フランス軍の要塞陥落を機に休戦協定が成立したが、北緯17度線を境界線に北と南に分断され、それぞれ中国・ソ連とアメリカの支援を受けて対立を深めた。1960年代に入るとアメリカが南の勢力を支援して本格的な軍事介入をおこなった。これに対して、中国とソ連は北の勢力に軍事・経済援助をおこなった。1976年、最終的には北の勢力が勝利し社会主義国家が成立した。

著作権保護の観点
により、掲載いた
しません。

- (10) 次の史料A～Cは、近代日本の国際関係に関連するものである。A～Cに関する記述ア～ウのうち、その説明が適切であるものを「○」、適切でないものを「×」としたとき、その組合せとして最も適切なものを、次の①～⑧の中から一つ選べ。
解答番号は20。

<史料>

A

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

B

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

C

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

ア 史料Aにより、ロシアは韓国に対する日本の指導、監督権を全面的に認めた。

イ 史料Bにより、日本は第一次世界大戦の終結後、ドイツが中国や南洋諸島に持っていた権益を継承することとなった。

ウ 史料Cを内容とする条約が調印されると、野党や軍部などは、条約を結んだ浜口雄幸内閣に対して、統帥権の干犯であるとして激しく攻撃した。

	ア	イ	ウ
①	○	○	○
②	○	○	×
③	○	×	○
④	○	×	×
⑤	×	○	○
⑥	×	○	×
⑦	×	×	○
⑧	×	×	×

(11) 次の宣言が調印された時期として最も適切なものを、年表中の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は21。

日本国とソヴィエト社会主義共和国連邦との間の戦争状態は、この宣言が効力を生ずる日に終了し、両国の間に平和及び友好善隣関係が回復される。

<年表>

年代	日本に関する主な出来事
1951 年	サンフランシスコ平和条約調印
	↑ ① ↓
1960 年	日米新安保条約調印
	↑ ② ↓
1965 年	日韓基本条約調印
	↑ ③ ↓
1972 年	日中共同声明調印
	↑ ④ ↓
1978 年	日中平和友好条約調印
	↑ ⑤ ↓
1985 年	プラザ合意成立

(12) 日本国憲法に関する記述の正誤の組合せとして最も適切なものを、次の①～⑧の中から一つ選べ。解答番号は22。

ア 吉田茂内閣はGHQの指示を受け、大日本帝国憲法の改正案の作成に着手した。

イ 日本国憲法は、大日本帝国憲法を改正する形式をとり、衆議院と貴族院で修正、可決された後、公布、施行された。

ウ 新憲法のもとで最初に実施された衆議院議員総選挙では、自由民主党と日本社会党による二大政党制が成立した。

	ア	イ	ウ
①	○	○	○
②	○	○	×
③	○	×	○
④	○	×	×
⑤	×	○	○
⑥	×	○	×
⑦	×	×	○
⑧	×	×	×

2 次の設問（１）～（８）に答えよ。

- （１）次の文章は、「高等学校学習指導要領（平成３０年告示）」の「第２章 各学科に共通する各教科 第２節 地理歴史 第２款 各科目 第１ 地理総合 B 国際理解と国際協力（１）生活文化の多様性と国際理解」において身に付ける知識及び思考力・判断力・表現力等を示している。

この中項目について、「高等学校学習指導要領（平成３０年告示）解説 地理歴史編」に示されている内容として正しいものを、次の①～⑤から２つ選べ。解答番号は２３。

B 国際理解と国際協力

（１）生活文化の多様性と国際理解

場所や人間と自然環境との相互依存関係などに着目して，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

（ア）世界の人々の特色ある生活文化を基に，人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり，影響を与えたりして多様性をもつことや，地理的環境の変化によって変容することなどについて理解すること。

（イ）世界の人々の特色ある生活文化を基に，自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解すること。

イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

（ア）世界の人々の生活文化について，その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して，主題を設定し，多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し，表現すること。

- ① この中項目における「場所」に関わる視点としては、例えば、生活圏の地理的な課題を、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりといった側面から捉えることなどが考えられる。
- ② この中項目における「人間と自然環境との相互依存関係」に関わる視点としては、例えば、世界の人々の特色ある生活文化の多様性や変容の要因を、それが見られる場所の人間活動と自然環境との関わりから捉えることなどが考えられる。
- ③ アの（ア）の「世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解すること。」については、地理的環境とのかかわりが深い事例を網羅的に扱い、系統地理的、地誌的に理解することを主なねらいとしている。
- ④ アの（ア）における「地理的環境」には、地域の自然環境だけではなく、歴史的背景や人々の産業の営みなどを反映した社会環境なども含まれる。
- ⑤ イの（ア）における「世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現すること。」とは、世界の人々の生活文化に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の現状や要因、解決の方向性などを考察する際に着目する視点を示したものである。

- (2) 下の表は、北アメリカ、南アメリカ、アフリカ、オーストラリア、南極の大陸別の高度分布を示している。大陸 a～e の組合せとして最も適切なものを、次の①～⑨の中から一つ選べ。解答番号は 24。

大陸別の高度分布

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(「理科年表」より作成)

	a	b	c	d	e
①	オーストラリア	北アメリカ	アフリカ	南アメリカ	南極
②	南アメリカ	アフリカ	オーストラリア	南極	北アメリカ
③	北アメリカ	南アメリカ	南極	オーストラリア	アフリカ
④	アフリカ	北アメリカ	南アメリカ	オーストラリア	南極
⑤	南極	オーストラリア	アフリカ	北アメリカ	南アメリカ
⑥	オーストラリア	南極	北アメリカ	アフリカ	南アメリカ
⑦	北アメリカ	アフリカ	南極	オーストラリア	南アメリカ
⑧	アフリカ	南アメリカ	オーストラリア	南極	北アメリカ
⑨	南アメリカ	南極	北アメリカ	アフリカ	オーストラリア

- (3) 次のA～Cは、地図中の北緯30度付近に位置するラサ、ムルターン、ニューオーリンズのいずれかの都市のハイサーグラフを示している。ハイサーグラフと都市の組合せとして最も適当なものを、次の①～⑥の中から一つ選べ。解答番号は25。

A

B

C

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(「気象庁資料」より作成)

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

	A	B	C
①	ニューオーリンズ	ラサ	ムルターン
②	ニューオーリンズ	ムルターン	ラサ
③	ラサ	ニューオーリンズ	ムルターン
④	ラサ	ムルターン	ニューオーリンズ
⑤	ムルターン	ニューオーリンズ	ラサ
⑥	ムルターン	ラサ	ニューオーリンズ

- (4) 次のア～ウは、地図中のA～Cのいずれかの範囲における震源地の分布を示している。ア～ウが示す震源地の分布と地図中のA～Cの組合せとして最も適切なものを、次の①～⑥の中から一つ選べ。解答番号は26。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

ア イ ウ

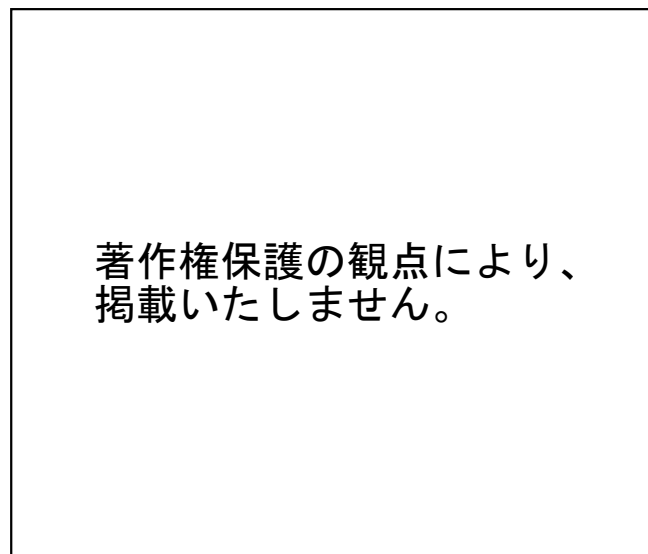
著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(「USGS 資料」より作成)

	A	B	C
①	ア	イ	ウ
②	ア	ウ	イ
③	イ	ア	ウ
④	イ	ウ	ア
⑤	ウ	ア	イ
⑥	ウ	イ	ア

(5) 次のグラフは、中国、アメリカ、日本における人口 100 人当たりの固定電話普及率と人口 100 人当たりの携帯電話普及率の変化を示したものである。グラフの A と B は、人口 100 人当たりの固定電話普及率と人口 100 人当たりの携帯電話普及率のいずれかである。

人口 100 人当たりの携帯電話普及率とアメリカの組合せとして最も適切なものを、次の①～⑥の中から一つ選べ。解答番号は 27。



(「ITU 資料」より作成)

- | | | |
|---|-------------------------|----------|
| ① | 人口 100 人当たりの携帯電話普及率 = A | アメリカ = ア |
| ② | 人口 100 人当たりの携帯電話普及率 = A | アメリカ = イ |
| ③ | 人口 100 人当たりの携帯電話普及率 = A | アメリカ = ウ |
| ④ | 人口 100 人当たりの携帯電話普及率 = B | アメリカ = ア |
| ⑤ | 人口 100 人当たりの携帯電話普及率 = B | アメリカ = イ |
| ⑥ | 人口 100 人当たりの携帯電話普及率 = B | アメリカ = ウ |

- (6) 次のA～Cで示された地域区分と説明文ア～ウの組合せとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は28。

A

B

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

C

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

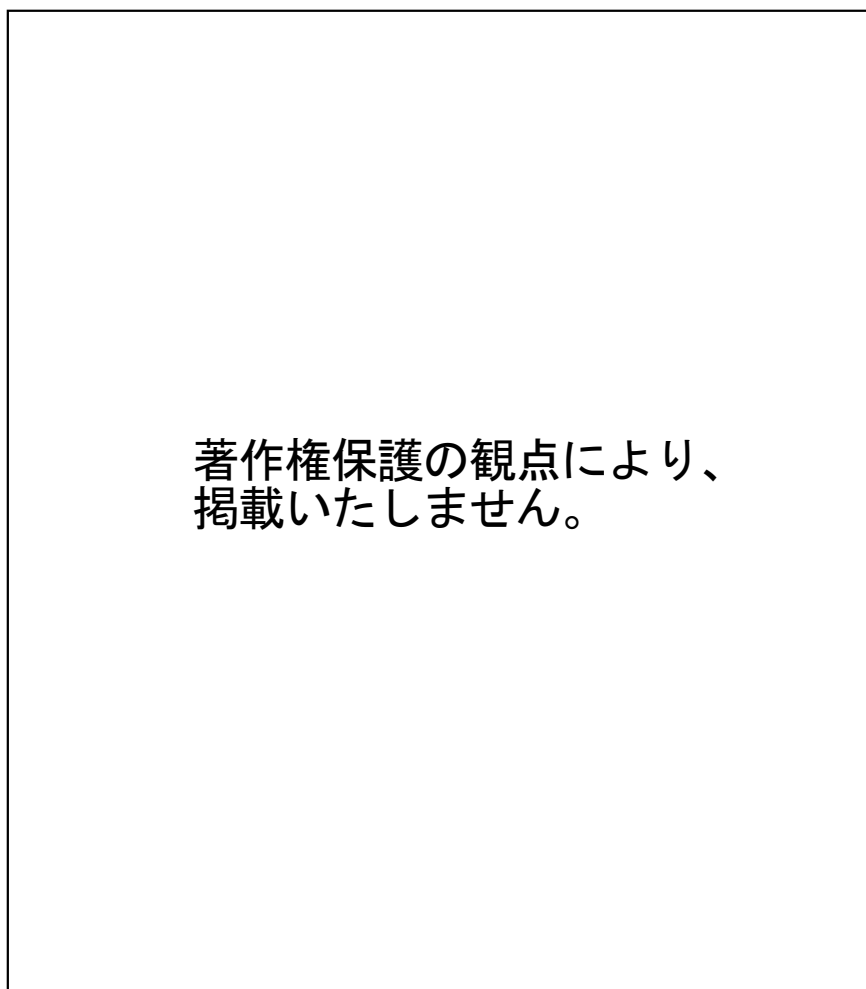
(「新詳資料 地理の研究」より作成)

- ア ある地域を便宜的に区分した形式地域を示している。
- イ 地域を構成する指標の質が均質であるとみなされる等質地域を示している。
- ウ 性質の異なる地域同士がある機能によって結びついた機能地域を示している。

	A	B	C
①	ア	イ	ウ
②	イ	ア	ウ
③	ウ	イ	ア
④	ウ	ア	イ
⑤	イ	ウ	ア

- (7) 次の 1968 年と 2020 年の地形図について説明した文章を読み、下線部に誤りを含んでいるものを、①～④の中から全て選べ。ただし、全て正しい場合は⑤を選べ。解答番号は 29。

1968 年地形図



(国土地理院 地形図「三条」昭和 45 年発行)

著作権保護の観点により、
掲載いたしません。

(国土地理院 地形図「三条」令和 2 年発行)

1968 年には、水田が広がっていた信濃川流域は、現在では、交通網の発達に伴い、新たな道路や鉄道が建設され、開発が進んでいることが分かる。

北西部に広がる①河岸段丘には、自動車道路とそのインターチェンジである「三条燕 IC」が建設され、信濃川には、②鉄道線路の下流側に新たに「石上大橋」が建設された。

市役所が移転した「旭町」や「東裏館」の周辺は市街地として開発されたが、土地の開発に伴う③スプロール現象がみられる。

市街地化され、住宅地が増加したことから、「石上大橋」に至る変電所が見られる道路沿いには、2020 年までに④消防署や警察署が建設され、この周辺での人口が増加していることを推測することができる。

(8) 次のアメリカ、メキシコ、カナダの貿易について説明した文章と、これら三か国の主な輸出相手国を示したグラフを見て、(ア) に当てはまる語句を①～④から、メキシコを⑤～⑦からそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は30。

以下のグラフは、アメリカ、カナダ、メキシコの北米三か国の主な輸出相手国への輸出総額の割合を示している。

これらの国の間では、2023年現在、自動車や鉄、アルミニウムなどの生産と流通を盛んにすることを目的とし、自由貿易協定である(ア) が結ばれており、加盟国間での貿易は各国において大きな比重を占めていることが分かる。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(「世界の統計 2024」より作成)

(ア) の語句 ① NAFTA ② USMCA ③ MERCOSUR
 ④ NATO
メキシコ ⑤ A ⑥ B ⑦ C